

ホワイトペーパー VisiWork Ⅷについて

2020 年 10 月

株式会社シナジー研究所

VisiWork 事業部

目次

ホワイトペーパー	1
VisiWork Ⅷについて	1
VisiWork とはなにか	4
VisiWork サービスの背景	4
具体的なアプローチ	5
ふだん使いのプロジェクト管理を目指して	5
サービスの目的と今後	6
REDMINE とはなにか	6
その機能とは	7
プロジェクト・マネジメント	7
ワークフロー・マネジメント	7
タスク・マネジメント	7
タイム・マネジメント	8
REDMINE は誰のためのツールか	8
プロマネのためのツール	8
経営者のためのツール	9
働き方改革・スマートワークのためのツール	10
ユースケース	10
プラグインの利用について	11
REDMINE と併用するツール、WEB サービス	11
サービスと価格	12
サービス提供の考え方	12
REDMINE クイックセットアップ（QS）	13
運用支援	13
アドバイザー・サービス	13
データ入力・更新代行	14

ユーザー専用ツール開発 14

コンサルティング 14

 EVM(出来高管理)導入検証 14

 REDMINE ベースのプロジェクト管理 課題分析と解決策の検討 14

VisiWork とはなにか

VisiWork とは、IT ツールを使ってコミュニケーションの改善を図り、組織の生産性を向上させることを目的とした、シナジー研究所が提供する業務支援型サービスの名称です。(VisiWork は、株式会社シナジー研究所から商標登録出願中です)

コミュニケーションを改善することでチームワークが改善されれば、その結果として組織の生産性は向上するはず、という考え方にもとづいています。



VisiWork サービスの背景

日本は、生産性の低い国になったと言われていますが、かつて製造業が活力を持っていた時代には、そんなことはありませんでした。この生産性の低下の原因は、仕事あるいは業務の姿が見えづらくなってきたことに原因があると考えています。

見えづらいもの、あるいは見えないものを表現するのは容易ではありません。そのため、人は仕事や業務を表現する言葉を失い、コミュニケーションの効率を下げてきたと考えられます。

製造業では、生産ラインという目に見えるものがあり、その改善を怠らなければ生産性は改善します。建設業のような現場が目に見える産業でも同様でしょう。しかし、日本はいまサービス業(第3次産業)の比率が7割程度(内閣府資料などによる。関連記事は[こちら](#))であり現場は見えづらくなっています。また、製造業であっても設計業務や、ソフトウェア開発のような仕事も、現場で見えるのは、コンピュータの前に座っている人の姿だけで、仕事や業務は見えてきません。

しかし、IT ツールの普及のおかげで、仕事は物理的に見えなくても、論理的には見えるようになって

できました。そして、論理的な視野を得ることにより、難しかったコミュニケーションが改善されていきます。クラウド技術などの発達により、IT の利用コストはどんどん下がっています。いまなら、リーズナブルな価格で、サービスを提供できると考えました。

具体的なアプローチ

まずは、いわゆるプロジェクト管理ツールを導入します。現在、VisiWork で標準としているツールは、オープンソースソフトウェアである REDMINE です。

REDMINE は、オープンソースソフトウェアであるために、誰でも利用することができて、かつ、使用料もリーズナブル、ケースによっては無料です。

プロジェクト管理ツールが導入されることで、プロジェクト管理のさまざまな手法が組織で利用できるようになります。

たとえば、ガントチャート(工程表、線表)によって、スケジュールを管理できるようになります。ガントチャートは、昔からある手法ですが、プロジェクトのすべての活動を線表の形で表し、マイルストーン(仕事の節目)や納期との関係を明らかにします。

ガントチャート上の仕事の単位に対して、担当者の予定工数(時間や日数など)を入力し、担当者ごとの負荷状況を把握し、それが平準化されるようにスケジュール変更することもできます。これは山積み・山崩しと呼ばれる手法です。

また、それらの仕事に対して、親子関係や前後関係といった、相互の関係も設定することができるため、プロジェクト全体の見通しが良くなります。

REDMINE では、担当者ごとに稼働時間の実績を把握することも可能です。これは、予定された仕事に対する実績として把握することができますが、予定された仕事がなかったとしても、単なる稼働時間実績として把握できます。そのため、予定外の仕事が多いなどの実態を把握することもできます。これは、コロナ禍によりテレワークが注目される中で必要とされているタイム・マネジメント機能といって良いでしょう。

ふだん使いのプロジェクト管理を目指して

「プロジェクト管理に向かない仕事もあるのでは」

その懸念に対する回答は、まさに VisiWork という提案のポイントです。

プロジェクト管理は、これまで大企業や大規模プロジェクトが使う手法ととらえられてきました。それには二つの理由があります：

まずは、ツールが高価であり便利なものではなかったこと。そのため、予算がふんだんにあり、PMO(Project Management Office: プロジェクト支援組織)のような支援スタッフが充実している組織が利用するものと考えられてきたのです。

もう一つの理由は、プロジェクトのとらえ方です。プロジェクトという考え方は、その始まりが軍事

や宇宙産業における利用であったために、例えば、月旅行の成功といった「最終」目標を達成するための管理手法という考え方をされてきました。

それに対して、近年、アジャイル開発、反復型開発、コンカレント・エンジニアリングなど、必ずしも最終目標を強く意識しない開発手法や経営手法も注目を集めています。しかし、組織である以上、短期的、中期的な目標は必ず存在するはずで、むしろ、目標を意識しないという流儀が必要以上に蔓延し、生産性を落としている可能性もあります。

また、従来は、規模あるいは契約金額の大きな特定のプロジェクトを選択し管理対象とすることが多かったと言えますが、VisiWork では、規模と無関係に、定型業務、定常業務を含め、組織や企業のすべての仕事を適用対象とすることを想定しています。

つまり、VisiWork は、最終目標を強く意識するプロジェクト管理に代わり、短期的、中期的な目標達成やリソースの安定的な稼働を目標として、プロジェクト管理の枠組みを組織全体によりライトに活用する「ふだん使いのプロジェクト管理」を提案しているのです。

サービスの目的と今後

この国の産業の生産性向上に寄与するのがこのサービスの目的です。そのため、全国どこの組織に対してもオンラインでサポートします。また、有償サービスに加えて、全国のさまざまなプロジェクトにて無料で使えるツールなどを提供していきます。

REDMINE とはなにか

REDMINE はプロジェクト管理のためのオープンソースソフトウェアです。REDMINE の歴史的な経緯もありソフトウェア開発業界における利用率が最も高いのですが、現在はそれ以外の、例えば製造分野などでもかなりのユーザーが利用しています。

REDMINE を導入しようとするユーザーは、REDMINE を自らの利用環境に展開して利用することになります。利用環境としては、社内のコンピュータを利用しても良いし、現在普及しつつある AWS (Amazon Web Service) のようなクラウド環境を利用することもできます。

すべてをユーザー自身の力でオープンソースソフトウェアの REDMINE (標準の REDMINE) を使用する限り使用料は必要ありません。しかし、実際には標準の REDMINE では機能が足りない場合もあり、追加でプラグインを利用する、あるいは関連システムとのインターフェースを開発する、などが必要となる場合もあります。その場合、プラグインが有償であればそのコストがかかり、また、インターフェースの開発では外注費などが必要になる場合もあります。

さらに、導入におけるアドバイスをコンサルタントに求める、あるいはオペレーションを外部委託するなどすると、その分の費用も必要になります。

このサイトで紹介している VisiWork は、以上のような導入やオペレーションに関わる支援やコンサルティングを、単一窓口によりリーズナブルな価格で提供するものです。また、パートナーであるアジャイルウェア社の Lychee Redmine のような優れた有償プラグインを提供することも可能で

す。

その機能とは

REDMINE のマネジメント機能は、次の4つです

プロジェクト・マネジメント

ワークフロー・マネジメント

タスク(作業)・マネジメント

タイム・マネジメント

タスクは、REDMINE ではチケットと呼ばれていて、それがこれら4つの機能を橋渡しする基本的な作業情報の単位となります。

このタスク周辺の機能が非常に柔軟であるために、プロジェクトやワークフローという視点でも、専用ツールと比較して柔軟で現場に即した使い方ができることになっています。

プロジェクト・マネジメント

プロジェクト・マネジメントの機能を使えば、REDMINE の基本的な作業単位であるタスク(チケット)を、プロジェクトという視点から活用することができます。

たとえば、ガントチャートによって、プロジェクト全体のスケジュールや進捗状況を可視化することができます。また、担当者の負荷状況を把握して、担当者の割り当てを変更することもできます。さらに、前述の Lychee Redmine の EVM(Earned Value Management: 出来高管理)機能を使えば、EVM という本格的なプロジェクト管理手法を使うこともできます。

ワークフロー・マネジメント

ワークフロー、つまり仕事の流れをマネジメントすることができます。作業単位であるタスク(チケット)には、例えば、「新規」、「作業中」、「承認待ち」、「完了」のような状態(ステイタス)を持たせることができ、あらかじめ権限が与えられたユーザーだけがその状態を変更することができます。

ワークフロー・マネジメントは、通常、定型的な業務を対象とするのですが、REDMINE では、タスクをプロジェクト管理と共通に利用するため、プロジェクト業務もワークフローの視点で管理することができます一方で、定型業務の管理も同じ枠組みの中で問題なく行うことができます。

タスク・マネジメント

上述の通り、REDMINE ではタスク(チケット)が基本的な仕事の単位となりますから、あらゆる業務が、タスクによって一元管理されることとなります。そのため、例えばそれぞれの担当者がもつすべてのタスクを簡単に把握することができます。さらに状態(ステイタス)を検索条件に加えれば、すでに完了したタスクを除外して、作業中のタスクだけに絞って検索することもできます。

また、REDMINE にはカスタムフィールドという機能があり、ユーザー組織独自の情報、例えば、組

織コードなどを持たせることができるため、これを検索条件に加えることができます。

タイム・マネジメント

REDMINE では、すべての仕事がタスクに紐づいて管理されるのですが、必ずしもそうすることが現実的でない場合もあります。

例えば、同僚の仕事を短い時間手伝った、顧客からの緊急の電話に対応した、などです。

このような仕事に対してあらかじめチケットを発行することはできません。だからといって、それを管理の対象から除外したのでは、業務の可視化、見える化にはなりません。それらの時間は、業務の改善を行う上で、重要な情報かもしれません。

REDMINE では、チケット外の時間を作業分類とともに記録することができます。そのため、担当者別に、チケット内で仕事をしている時間、チケット外で仕事をしている時間を分けて把握することができます。これは、コロナ禍を原因として従来に増してテレワークへの移行が加速しようとしている中で注目されている、タイム・マネジメント機能を提供することになります。

REDMINE は誰のためのツールか

プロマネのためのツール

プロマネ(プロジェクト・マネージャ)のあなたは、プロジェクト管理のためにどんなツールを使用していますか

プロマネにこの質問をするとおそらく答えは 3 つに分類されることでしょう。

恵まれた環境にいるプロマネからは、伝統的な評価の高い、そして高価なプロジェクトマネジメントツールを使用しているという答えが返ってくるでしょう。おそらくそのプロマネは PMO(プロジェクトマネジメント・オフィス)として優秀なスタッフを従えていることでしょう。

もう一つの答えは、「特になにも」というものでしょう。そして、その他ほとんどのプロマネからの答えは、「エクセルで工数やコストを管理している」というものでしょう。「エクセルでガントチャートを書いています」という答えもありそうです。

このエクセルで行うプロジェクト管理は、非常に簡単に始めることができるためポピュラーですがいくつかの問題を含んでいます。まず、組織メンバーの力を借りることができません。エクセルは一人で利用するツールだからです。エクセルで作成した表をサーバーに保存して関係者で共有することにしても事情は大して変わりません。同時更新ができないため、結局、プロマネやその補佐担当者以外、実質的な管理作業はできないからです。

また、データの再利用性も大きな問題です。エクセルで管理するといっても、一つのファイルやシートで事が足ることはありません。いくつもの表を同時に管理する必要がある上に、なにか変更があ

と関連する箇所をいくつも修正必要が出てきます。そのため時には誤ってデータでプロジェクト管理上の重大なあやまりを犯してしまいます場合も出てくるでしょう。

もう一つ大きな問題は、プロジェクト管理の普遍的な知識の恩恵にあずかることができないということです。例えば、EVM(出来高管理)のような優れた伝統的手法がありますが、それを用いるには使いやすいツールが身近に存在し、かつ日常利用しているデータがそのツールに簡単に連携できなくては現実にはその手法を用いることはできません。

以上、簡単に「エクセル型プロジェクト管理の問題」を 3 つ挙げましたが、VisiWork が推奨する REDMINE はそれ自体が無料で利用できるか非常に安価でありながら、これら3つの問題を同時にきれいに解決してくれます。

また、REDMINE は一言ではプロジェクト管理ツールと呼ばれていますが、そのほかにワークフロー管理や、工数管理、予算管理など幅広い機能が非常に柔軟な形で統合されています。また、オープンソースソフトウェアという特徴を持っていますので、プロジェクト管理において必然的に必要とされる各種情報システムやクラウドサービスとの連携もユーザー独自の機能として追加しやすい仕組みとなっています。

REDMINE が、そしてそれを活用するための VisiWork サービスがどのようなものであるか、この VisiWork のソリューションサイト(<https://visiwork.synergy-res.co.jp/>)を活用して情報を仕入れてください。

経営者のためのツール

経営者のあなたは、会社経営のためにどのようなツールを使用していますか

経営者の皆さんにこの質問をすると、「会社経営のためのツールとはなんのことか」という答えが返ってきそうです。もちろん会社組織は IT ツールを含むさまざまなツールを使用しますが、経営者あるいは経営補佐者あるいは部門長層のためのツールというのはあまり聞きません。

大企業ではさまざまな情報システムを開発しそこからさまざまなデータが生まれていますから、それらの情報を整理して意思決定における活用を促すダッシュボードやコックピットと呼ばれるシステムが利用されていることでしょう。

しかし、中小企業はどうすればよいのでしょうか。情報システムの開発が進んでいなくてデータの整備や一元化も遅れている場合はどうすればよいのでしょうか。その答えはプロジェクト管理にあります。

プロジェクトはどんな会社にも存在します。業務がプロジェクト型でなくても、企業にとって非常に重要な非日常的な仕事はプロジェクト型のはずであり、その成否は極めて重要です。また、製造業

もプロジェクト型の仕事は多く、サービス業であっても新しいサービスの投入など重要な業務はプロジェクト型であるはずです。

つまり、多くの企業にとって、つまり経営者にとってプロジェクト管理は重要な仕事であり、それは個別のプロジェクトの担当者やプロジェクトマネージャだけの関心事であってはならないはずです。また、プロジェクト型が主流の業務である組織においては、プロジェクト管理によって会社全体の姿を把握することができます。つまり業務可視化が実現するのです。

このサイトで紹介している VisiWork は経営視点を重視するソリューションです。ここで紹介する情報を活用して、安価で柔軟なプロジェクト管理、そして業務可視化の仕組みを俊敏に導入していただきたいと思います。

働き方改革・スマートワークのためのツール

働き方改革・スマートワークの推進責任者のあなたは、そのためにどんなツールを使用していますか

残業時間の短縮ばかりフォーカスされる働き方改革ですが、本来は多様な働き方を可能にする改革です。そのためのツールはあるでしょうか。

コロナ禍をきっかけとして急速に展開が進んでいるテレワークですが、そのためのツールは、情報セキュリティシステム、オンライン会議、チャットツール、などであると言われていたますが、それだけでは決して十分ではありません。テレワーク、在宅勤務の問題点として、コミュニケーションの問題、一体感の不足、目的の共有が難しいなどの点が指摘されています。それらは情報セキュリティの問題ではなく、またオンライン会議やチャットツールが解決してくれる問題点でもありません。

必要なのは組織としての目標、それを実現する個別の仕事とその順序、その仕事の実行を担当する担当者や割り当てられた資源、それらが可能な限り明確になり組織内で共有される必要があるのです。現在そのような課題を解決する手段はプロジェクト管理やタスク管理またタイム管理であり、VisiWork が推奨する REDMINE ですべて柔軟に実現できます。

このサイトでは、テレワークの事例についても紹介していきます。REDMINE が、そしてそれを活用するための VisiWork サービスがどのようなものであるか、この VisiWork サイトを活用して情報を仕入れてください。

ユースケース

ユースケースとして、シナジー研究所(以下、シナジー)における REDMINE の利用目的について説明します。シナジーは現在 VisiWork 事業に注力しようとしていますので、シナジーにおける利用目的とはそのまま VisiWork のための利用目的ということになります。

利用目的はまず社内利用とお客様向けのサポートの二つに分かれることになります。社内利用とは、シナジーのメンバーだけが利用するということで、現在、VisiWork のためのツール開発、マーケティング活動、社内管理業務の3つがあり、それぞれで異なる REDMINE をインストールして利用しています(表参照)。

VisiWorkが使用するREDMINEの用途と、各種ツール・WEBサービス

分類	対象業務	主な有償プラグイン	ツール・WEBサービス利用				
			メール	オンライン会議 (ZOOM, Skype等)	Slack	GoogleDrive	GitHub等 ソフトウェア開発 ツール
社内利用	VisiWork ツール開発	(Open)	○		○	○	
	マーケティング活動 (社外連携あり)	Easy Redmine	○	○	○	○ (一部社外連携用)	
	社内管理業務	Lychee Redmine	○		○	○	
VisiWork お客様サポート	製造業 プロジェクト管理	Lychee Redmine	○	○			
	ソフトウェア開発 プロジェクト管理	Lychee Redmine	○	○	○		○
	その他						

(主なプラグインの意味: (Open)->有償プラグインなしで標準の範囲で使用、Easy Redmine->Easy Software Ltd. 社、Lychee Redmine->アジャイルウェア社が提供)

プラグインの利用について

表中で、主な有償プラグインとあるカラムは、使用中の使用料が発生するプラグイン(有償プラグイン)を示しています。(Open)とあるのは、有償プラグインを使用していない、つまりオープンの範囲での使用、あるいは無償プラグインのみの追加であることを示しています。

Easy Redmine や Lychee Redmine は、有償プラグインです。特に、アジャイルウェア社が提供する Lychee Redmine を利用するケースが多くなっています。これは、日本の現場に向けた辛い所に手が届く作り込みになっているためで、シナジーのお客様からも社内利用のメンバーからも評価が高いです。

REDMINE と併用するツール、WEB サービス

表には REDMINE 以外のツールや WEB サービスの利用状況も記載しました。どのケースでもメールを利用するのは当たり前として、社内利用とお客様サポートで二つのパターンがあります。

コロナ禍で一気に利用が加速しているオンライン会議のためのツール、ZOOM や Skype、それらを使ったオンライン会議における画面共有などは、シナジーでもこのパターンに関係なく共通に利用されています。社内利用の場合は、チャットツールである Slack を併用しています。

Slack と REDMINE の組み合わせは利用価値があります。REDMINE は WEB アプリケーションであり、入力された情報はリアルタイムで共有されますが、情報提供はどちらかと言えばシステム

側が受け身であるのに対して、Slack はチャットツールですから通知機能などに優れその情報提供はリアルタイム性が高いものとなっています。入力された情報をプッシュする機能は REDMINE にもあるので、Slack は主に、入力前の世界、つまり、入力を促すこと、入力方法、使用方法、入力の適否を尋ねること、などに使用しています。この併用により、REDMINE というリアルタイム性の高い情報共有手段を遅滞なく適切に利用することができるという相乗効果が生まれています。

シナジーでもうひとつ高い相乗効果を発揮しているツールが GoogleDrive です。このツールがあるために、REDMINE はプロジェクト、ワークフロー、などを管理するツールの枠を超えて、汎用業務ソフトに近い機能を持つことが可能になります。例えば、請求書の処理をするワークフローを組み、その受取から支払いまでの着実なワークフローを管理すると同時に、スキャンした請求書を GoogleDrive に保存します。そして、その請求書の URL を REDMINE のカスタムフィールドとして定義すれば、ワンクリックでいつでもその請求書を参照することができます。このあたりは今後、OCR や RPA との連携により、一層利便性の高いものになっていくでしょう。そうすると REDMINE があれば、特別な業務ソフトを導入する必要がない世界が始まるかもしれません。また、Slack に GoogleDrive へのアクセスを許可すれば、Slack 側からもそこに保存されたファイルを参照することができます。このような GoogleDrive の使い方は、当然ながら Gmail との相性も良く、メール上に URL を記載するだけで、メール上に保存ファイルの内容が表示されます。

以上が社内での利用方法ですが、お客様サポートのケースでは、社外ということでオンライン会議が多く利用されます。お客様のプロジェクトをサポートする際には、REDMINE のガントチャートや EVM(出来高管理)のグラフなどを直接オンライン会議の画面共有によって表示し、議論や意思決定を行っています。また、ソフトウェア開発管理のプロジェクトでは、業務そのものがデジタル環境との相性が良いため、様々なツールが追加で利用されています。

サービスと価格

サービス提供の考え方

VisiWork サービスの基盤として使用する REDMINE は非常にフレキシブルでありながら、小規模な利用から大規模な利用まで連続的に利用範囲を拡張することができます。したがって VisiWork サービスでは、システムの導入前に要件定義やコンサルティングなどの期間をとることなくまずは REDMINE を稼働し、誰でもが利用できる環境を整えたのちに、段階的に実務に提供するという手順を推奨しています。

実際に使用する環境がないまま想像したり心配したりするよりも、実際に手で触りながら、導入の課題を検討し、またその解決策を考えるほうが効率的であり、また失敗のリスクも少なく済むからです。

VisiWork サービスの内容と価格を記載している順番は、実際にこのように導入が進行することを想定しています。つまり、クイックセットアップ(標準的な案件で1か月で最低限必要な機能性をセットアップすること)を行い、その後プロトタイプ的な限定運用を始め、必要であればツールを開発す

<https://visiwork.synergy-res.co.jp/>

るなど一通りの運用体制を整えて、さらにより高度な利用を目指したコンサルティング・プログラムなどを実施することを推奨しています。

サービス名	サービス内容	標準的な期間	価格
REDMINE クイックセットアップ (QS)		一か月 (標準的な案件)	24万円
運用支援	アドバイザー・サービス	1～3か月契約 インシデント制	月額10万円(10インシデント) 1インシデント=1時間相当の作業 (サポート対象ユーザー数により、 別途最低インシデント数を定めております)
	データ入力・更新代行		
ユーザー 専用ツール開発	BI(ビジネス・インテリジェ ンス)関連や チケット入力更新ツール などの開発	1か月程度 (開発期間)	お見積り
コンサルティング	EVM(出来高管理) ワークショップ	3か月	100万円
	課題分析と解決策の検討	1か月～3か月	お見積り (月額50万円程度)

(サービスの構成と価格は予告なしに変更されることがあります)

REDMINE クイックセットアップ (QS)

VisiWork アドバイザーが REDMINE をテスト的に導入し、お客様の導入目的に合致したワークフローや、プロジェクト構成、初期ユーザーとその権限などを設定し、デモを行います。

VisiWork サービスはすべてオンラインで提供されます。お客様は基本的な要望、設定内容やテスト利用の結果、課題やその解決策などに関し、全国どこからでもオンライン会議(WEB 会議)で VisiWork アドバイザーとディスカッションを行うことができます。

お客様のご希望により、このクイックセットアップで利用するクラウド環境として REDMINE の有償プラグインを提供する弊社パートナーのクラウド環境を最初の段階から利用することも可能です。この場合、例えばアジャイルウェア社の Lychee REDMINE を利用することが可能です。

運用支援

アドバイザー・サービス

アドバイザー・サービスでは VisiWork アドバイザーが、REDMINE の設定や操作方法、また REDMINE にインポートするデータの作成方法やエクスポートされるデータの活用方法などをアドバイスします。

データ入力・更新代行

VisiWork アドバイザーはお客様の情報セキュリティ方針により、リモートから簡単な設定やデータの一時的な入出力も代行します。例えば、お客様環境の REDMINE にアクセスが許される場合は直接的にそれを行い、リモートデスクトップが提供される場合は、そこから操作を行い、運用を支援します。そのようなアクセスが許可されない場合、リモートからの設定やデータの一時的な入出力に代行は困難になりますが、その場合でもオンライン会議の画面共有などで操作方法を助言し支援いたします。

大量のデータ入出力についても事前にご相談いただくことにより訓練されたオペレータを配置して操作を支援いたします。VisiWork ではチケット一括投入更新ツール(Ticket Manipulation Tool)を開発しておりますので、このような操作も最小限の人手の介在で効率的に行うことができます。

ユーザー専用ツール開発

REDMINE は幅広い範囲の機能を提供しておりますが、情報提供の手段が豊富に用意されているとは言えません。

そこで、このサービスでは各種の情報ビューの要求に応えるため、BI(ビジネス・インテリジェンス)の機能をユーザー専用開発します。

また、チケットを大量に登録あるいは更新するためのツールをユーザーの業務の特徴を生かした形で開発し、作業の効率を向上させます。

コンサルティング

EVM(出来高管理)導入検証

EVM 導入検証(コンサルティング)では、遂行予定あるいは遂行中のプロジェクトをいくつか選定し、それらプロジェクトに対して EVM 手法を適用して分析を行います。打ち合わせはワークショップ形式で、プロジェクトの代表者が報告しコンサルタントを加えて全員でディスカッションを行う形式で進めます。

VisiWork では EVM をサポートする REDMINE プラグインを利用しますが、それが利用できない場合は、BI(ビジネス・インテリジェンス)によって EVM のための情報ビューを構築します。

REDMINE ベースのプロジェクト管理 課題分析と解決策の検討

本来どのようなプロジェクト管理を行うべきか、トップダウンの視点を加味して検討し、REDMINE で実現できる部分できない部分を識別し、REDMINE で要求が満たせない部分に関しては代替案を検討します。